

明智光秀と近江



延暦寺根本中堂



宇佐山城跡主郭の石垣

明智光秀と近江 関連地図

発行：令和元年10月14日

編集：滋賀県教育委員会事務局文化財保護課 安土城・城郭調査係

〒520-8577 滋賀県大津市京町四丁目1番1号

TEL. 077-528-4678 FAX. 077-528-4956

Mail ma16@pref.shiga.lg.jp

コース 1 志賀の陣の足跡をめぐる

志賀の陣と光秀

志賀の陣とは、元龜元年（1570）9月から12月にかけての、織田信長と浅井長政・朝倉義景との戦いのことです。この戦いで、宇佐山城主の森可成、織田信治が戦死し、信長が比叡山に立て籠もる浅井・朝倉勢を包囲するものの3か月も釘づけにされ、最後は足利義昭のあっせんにより和睦するという、信長にとって最も苦しい戦いでした。志賀の陣では、明智光秀は、壺笠山・青山に布陣した朝倉方への備えとして、佐久間信盛らと穴太に陣取っていたと『信長公記』にあり、穴太の盛安寺には供養塔や陣太鼓といった光秀ゆかりの品々が残っています。

また光秀は、討ち死にした森可成にかわって宇佐山城主となりました。



コース2 光秀ゆかりの坂本をめぐる

延暦寺焼き討ちと光秀

元龜2年（1571）9月12日早朝、信長勢3万は一気に比叡山延暦寺へ攻め上がりました。堂宇のことごとくを焼き払い、また僧や俗人、子どもに至るまでひとり残らず首を打ち落としたといわれます。しかし、延暦寺境内の発掘調査では、根本中堂と大講堂以外からは焼失した痕跡は発見されていません。焼き討ちの主戦場となったのは山麓の坂本一帯であり、山上における焼き討ちは小規模なものだったと考えられています。光秀は延暦寺焼き討ちで功績をあげ、志賀郡を与えられ、拠点として坂本城を築きました。



コース3 安土城と城下町をめぐる

本能寺の変と安土

天正10年（1582）6月2日、明智光秀は京都本能寺に織田信長を襲撃し、信長は自害して果てました。信長自害の悲報はその日のうちに安土に伝わり、安土は大混乱に陥ります。そんな中、光秀が6月5日、安土に入城します。8日、光秀は家臣の明智秀満を留守居として上洛し、13日に山崎の合戦で光秀が敗れると、秀満は安土城を出て坂本城に向かいます。その後14日から15日にかけて、安土城が焼失しました。焼けた原因はわかりませんが、発掘調査の結果、焼けたのは天主をはじめとする主郭部だけだったことが確認されました。

活津彦根神社本殿

安土城跡と城下町跡

常楽寺港跡

新宮神社拝殿

木村城跡

セミナリヨ跡

木村城跡 ● 常楽寺湊跡 ● JR安土駅 ● 惣構どて推定地 ● 浄厳院 ● 浄厳院 ● 旧伊庭家住宅 ● 沙沙貴神社 ● 沙沙貴神社本殿 ● 旧伊庭家住宅